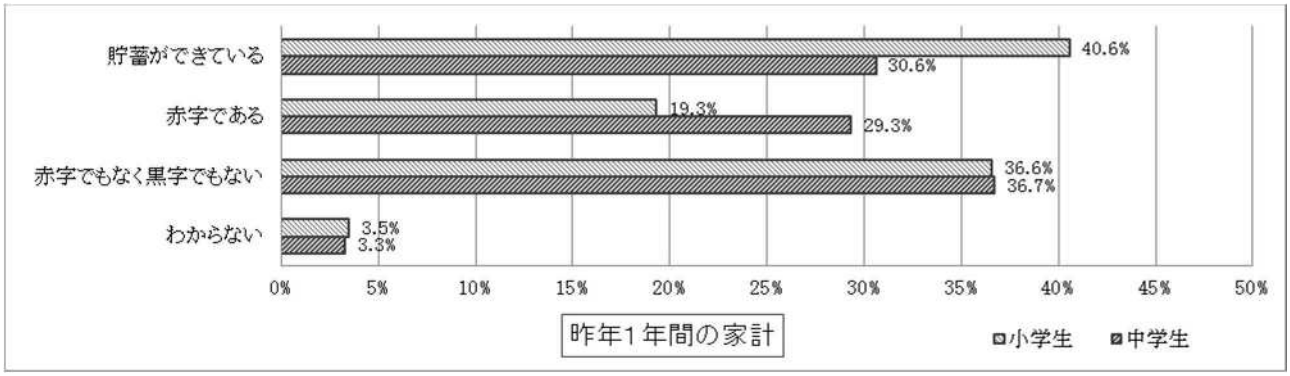
6. 家庭の経済状況

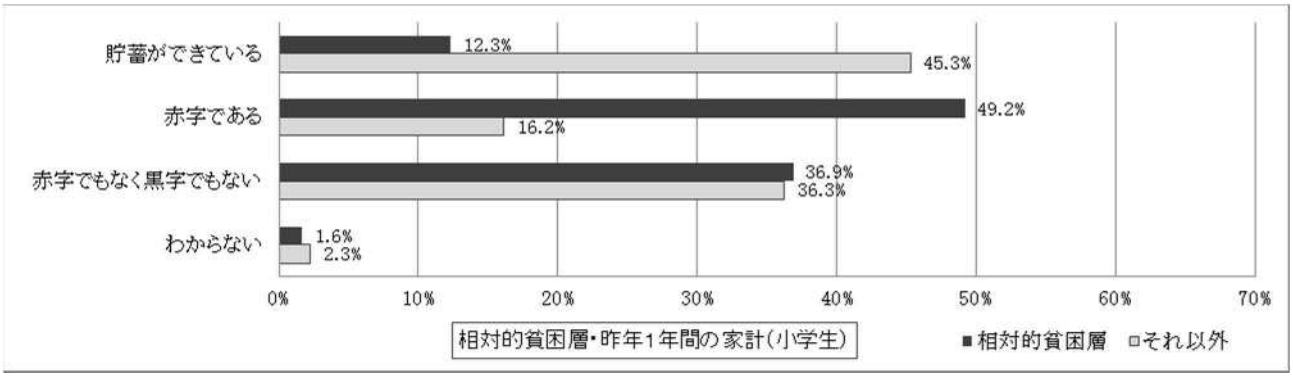
問 24(1)　昨年（平成 28 年）1 年間のあなたの家計の経済状況についておたずねします。

もっとも多い回答は小学生の保護者では「貯蓄ができている」(40.6%）で、中学生の保護者では「赤字でもなく黒字でもない」(36.7%）です。中学生の保護者では「赤字である」という回答が 29.3%で小学生の保護者に比べて 10 ポイント高く、「貯蓄ができている」(30.6%）は 10 ポイント低くなっています。

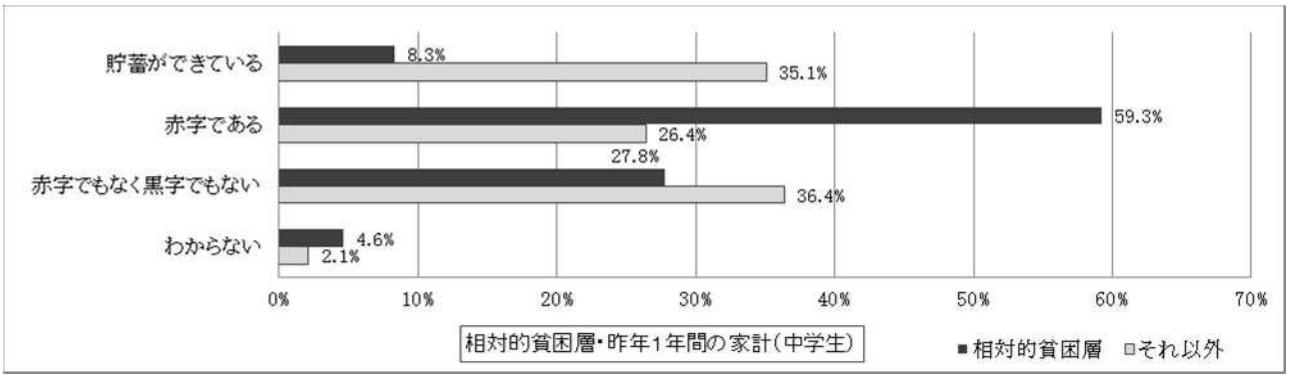
相対的貧困層では、「赤字である」が小学生の保護者で約 5 割、中学生の保護者で約 6 割ともっとも多く、「貯蓄ができている」という回答の割合は「それ以外」に比べて大きく下回っています。



（小学生　N=1513　中学生　N=1084）



（相対的貧困層　N=122　それ以外　N=1238）

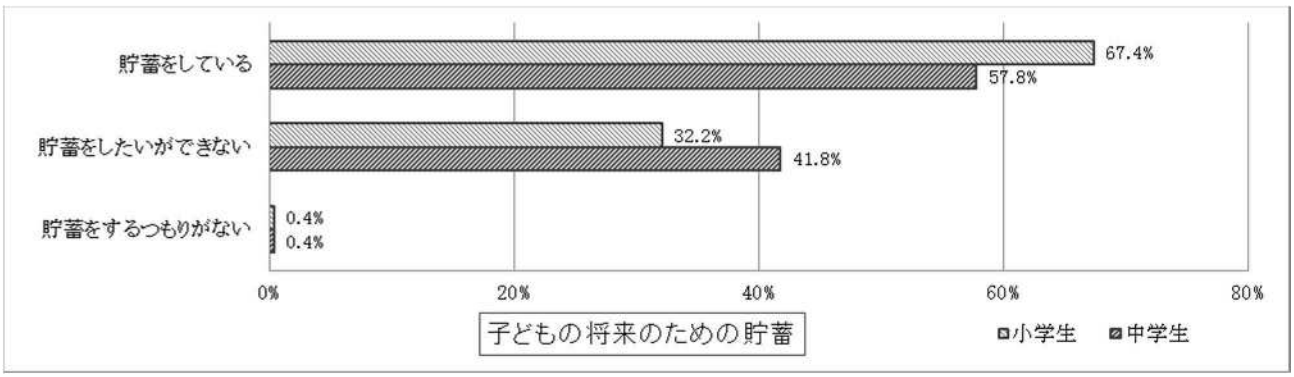


（相対的貧困層　N=108 それ以外　N=855）

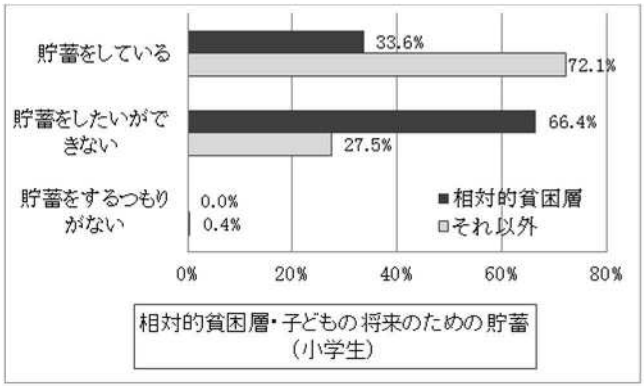
問 24(2)　お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。

もっとも多い回答は小学生、中学生の保護者ともに「貯蓄をしている」で、小学生の保護者（67.4%は、中学生の保護者（57.8%）より 10 ポイント高くなっています。「貯蓄をしたいができない」は中学生の保護者（41.8%）で、小学生の保護者（32.2%）より約 10 ポイント高くなっています。

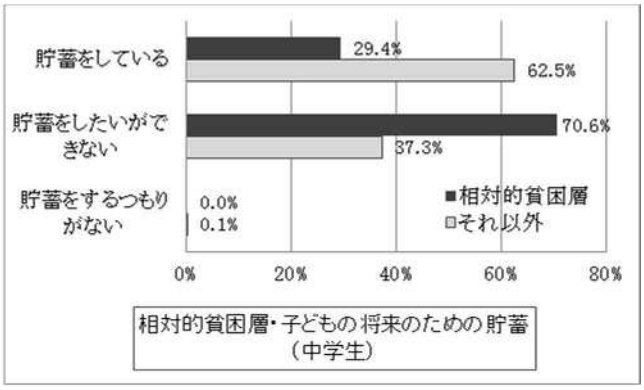
相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともに「それ以外」に比べて「貯蓄をしている」という回答の割合が半分以下と低く、「貯蓄をしたいができない」の割合が高くなっていることがわかります。



（小学生　N=1514　中学生　N=1086）



（相対的貧困層　N=122　それ以外　N=1237）

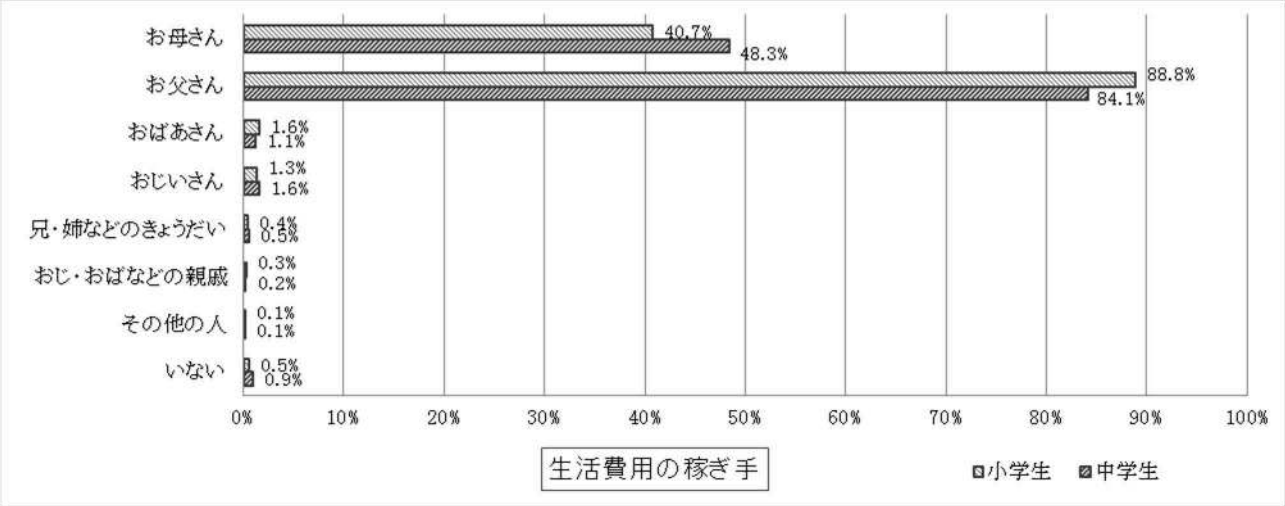


（相対的貧困層　N=109　それ以外　N=857）

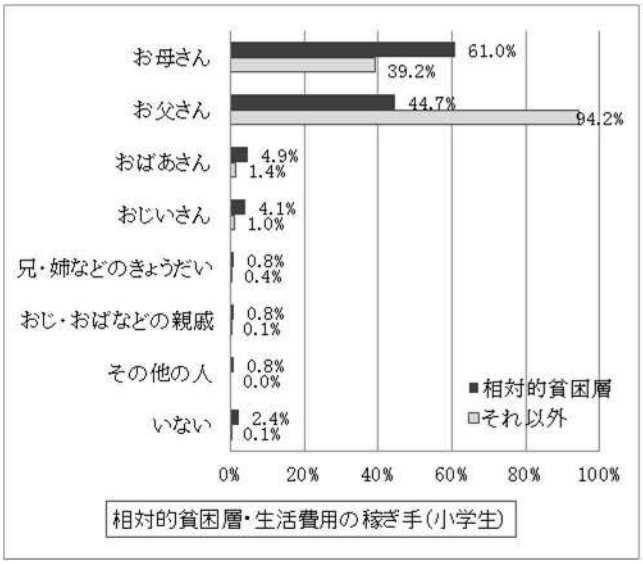
問 25　ご家庭の生活費用の稼ぎ手となっている方はどなたですか。このアンケートを持ち帰ったお子さんからみた続柄でお答えください。（複数回答）

小学生、中学生の保護者ともに「お父さん」という回答がもっとも多く、小学生 88.8%、中学生 84.1%です。次いで多い「お母さん」は、小学生 40.7%、中学生 48.3%で、その割合は中学生の保護者でより高い傾向があります。

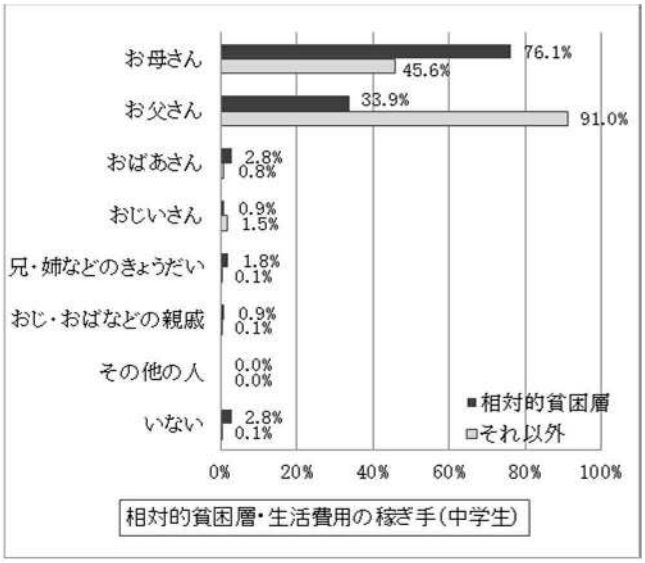
相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともにもっとも多い回答は「お母さん」で、小学生の保護者で 61.0%、中学生の保護者で 76.1%と、「それ以外」に比べて大きな差があり、特に中学生の保護者で顕著です。また「それ以外」では「お父さん」という回答が小学生、中学生の保護者ともに 9 割を超えているのに対し、相対的貧困層では、小学生の保護者で 44.7%、中学生の保護者で 33.9%と、どちらも半分以下の低い割合になっています。



（小学生　N=1522　中学生　N=1089）



（相対的貧困層　N=123　それ以外　N=1242）

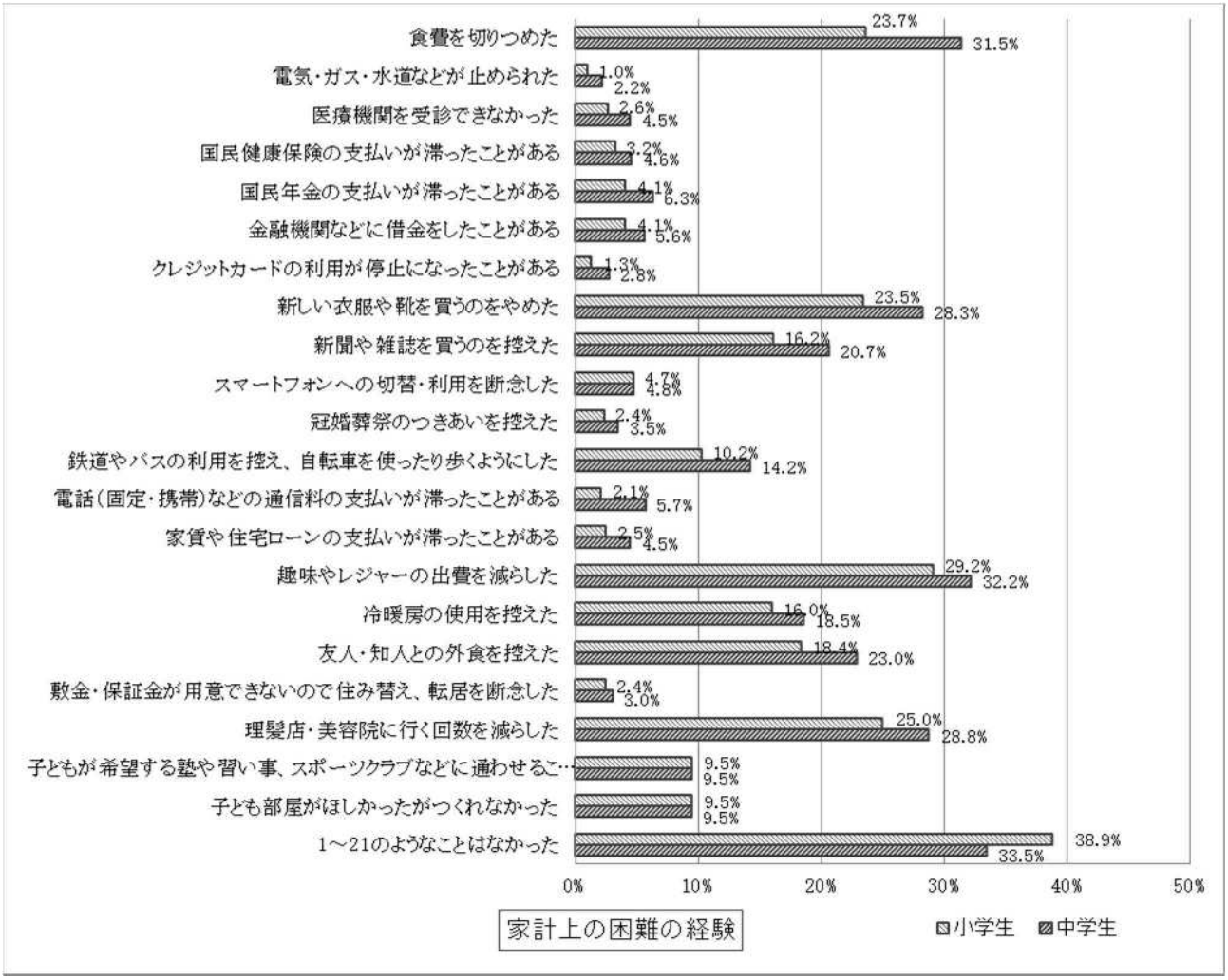


（相対的貧困層　N=109　それ以外　N=858）

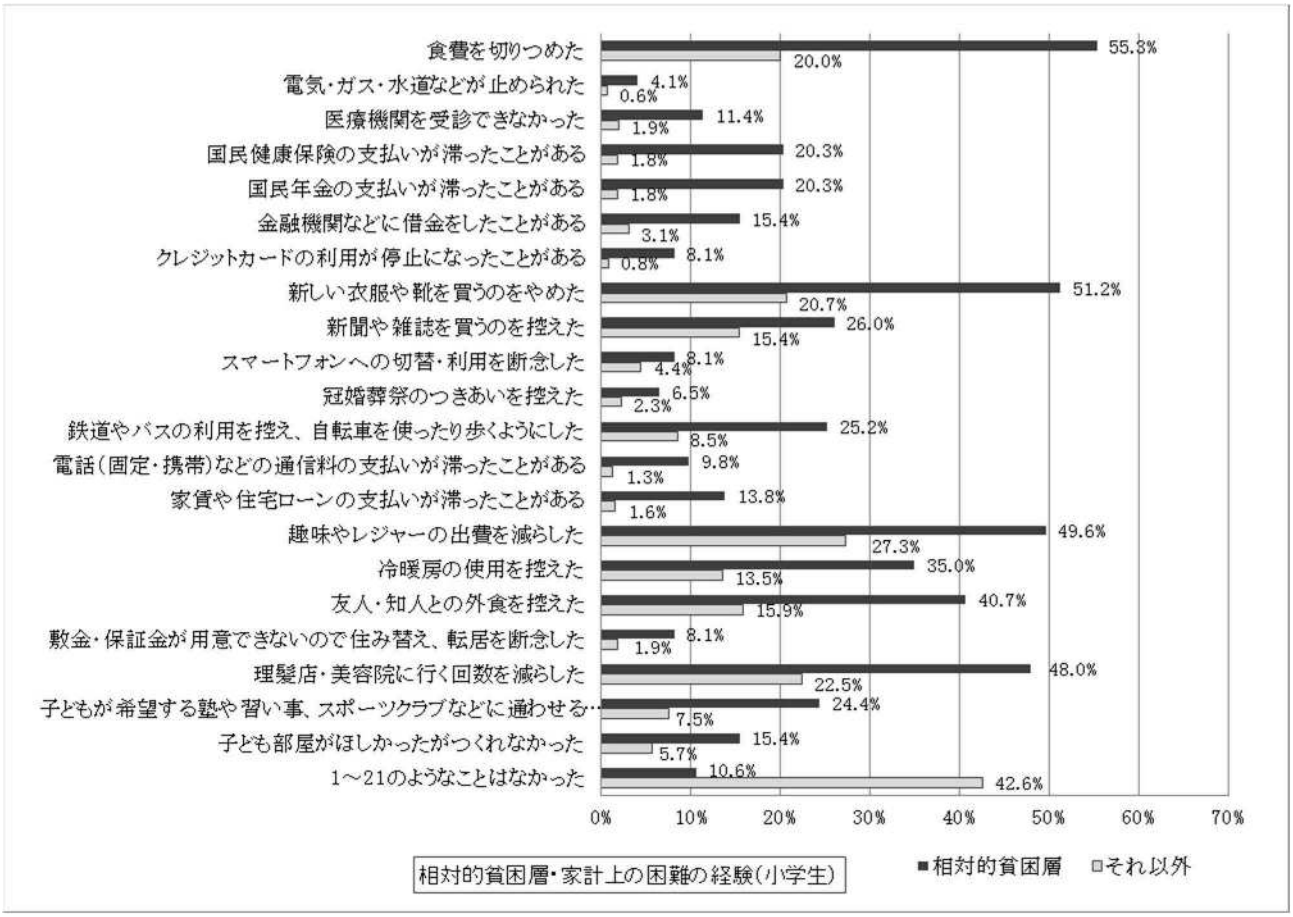
問 26　あなたのご家庭では、昨年（平成 28 年）1 年間に経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（複数回答）

小学生、中学生の保護者ともに、もっとも多い回答は、「1～21 のようなことはなかった」で小学生 38.9%、中学生 33.5%となっています。経験したことがある項目の中では「趣味やレジャーの出費を減らした」で小学生の保護者で 29.2%、中学生の保護者では 32.2%と約 3 割に達し、次いで、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのをやめた」と続きます。これらは、小学生、中学生の保護者ともに 2～3 割台で、中学生の保護者では「友人・知人との外食を控えた」「新聞や雑誌を買うのを控えた」という回答も 2 割を超えています。その他の項目でも小学生より中学生の保護者の回答の割合が高く、中学生の保護者で出費を抑える傾向が強いことがわかります。

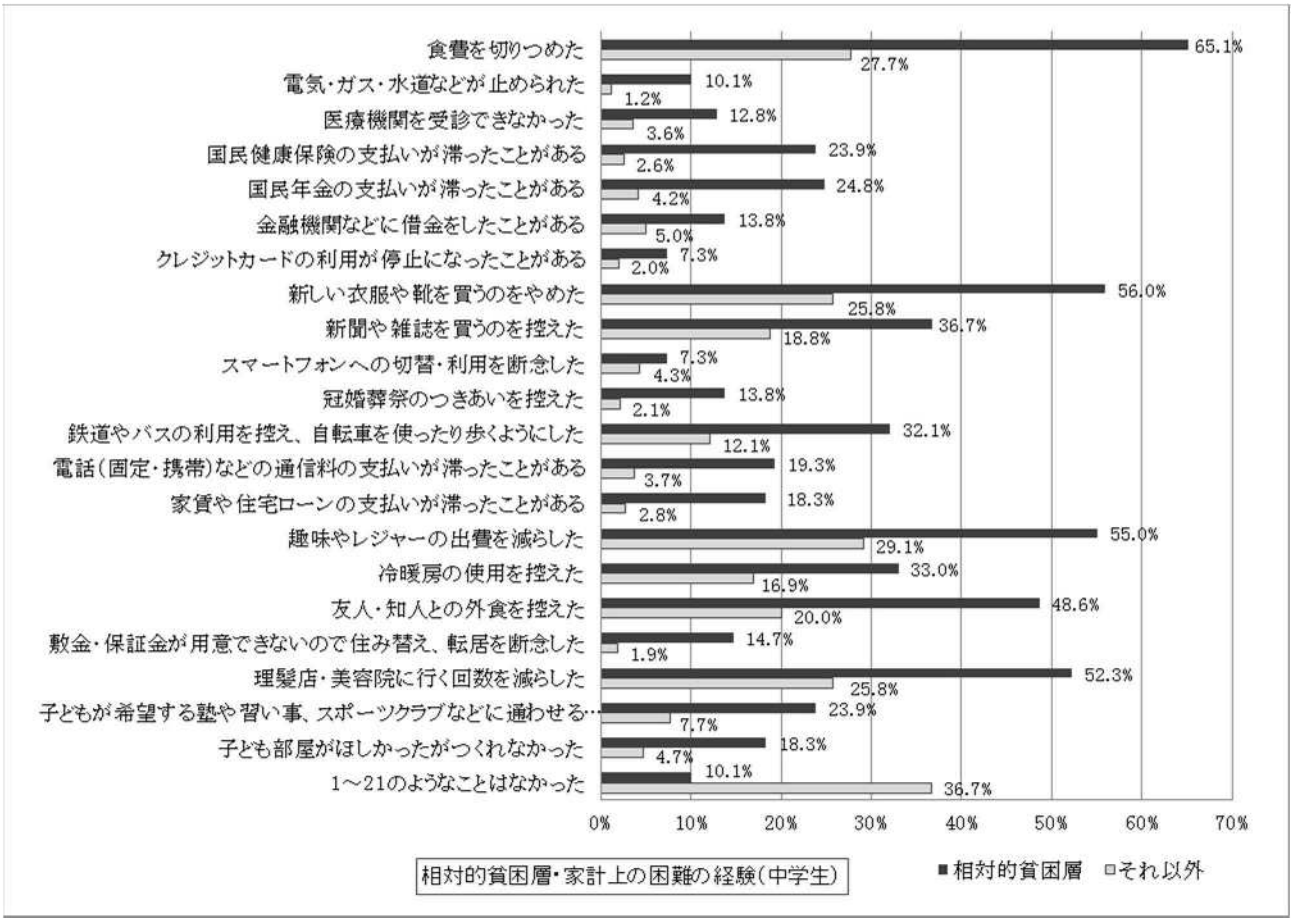
相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともに「1～21 のようなことはなかった」という回答が約 1 割で、これ以外のすべての項目で「それ以外」に比べて高い割合であることがわかります。もっとも多い回答の「食費を切りつめた」は、小学生の保護者で 55.3%、中学生の保護者では 65.1%です。また、小学生の保護者では「新しい衣服や靴を買うのをやめた」（51.2%）、中学生の保護者では「新しい衣服や靴を買うのをやめた」（56.0%）、「趣味やレジャーの出費を減らした」（55.0%）、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」（52.3%）が 5 割を超えています。



（小学生　N=1522　中学生　N=1089）



(相対的貧困層　N=123　それ以外　N=1242)



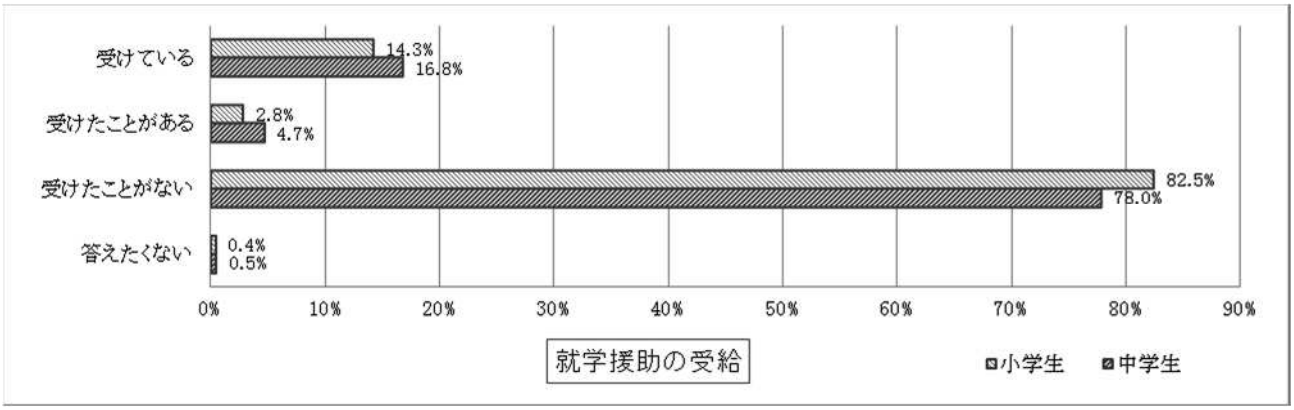
(相対的貧困層　N=109　それ以外　N=858)

問 27　昨年（平成 28 年）1 年間に、次の手当や援助などを受けたことがありますか。

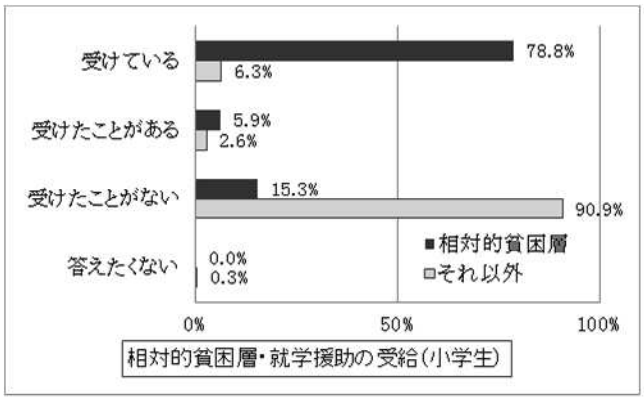
問 27①　就学援助

「受けたことがない」という回答がもっとも多く、小学生の保護者で 82.5%、中学生の保護者で 78.0%です。次いで多い「受けている」という回答は、小学生の保護者で 14.3%、中学生の保護者で 16.8%です。「受けている」、「受けたことがある」という回答の割合は、中学生の保護者でやや高くなっています。

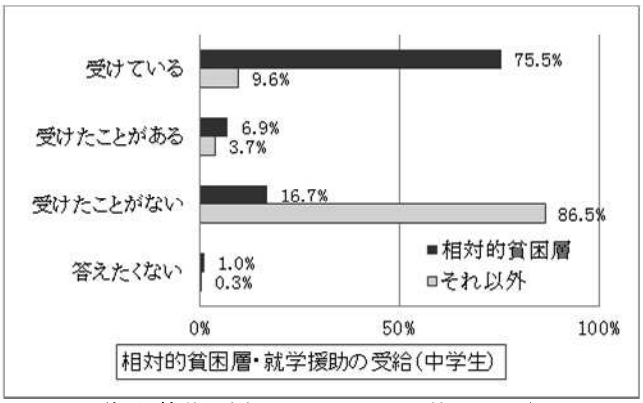
相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともに「受けている」という回答は 7 割台後半を占めており、「それ以外」と比べて大きな差があることがわかります。



（小学生　N=1417　中学生　N=998）



（相対的貧困層　N=118　それ以外　N=1153）

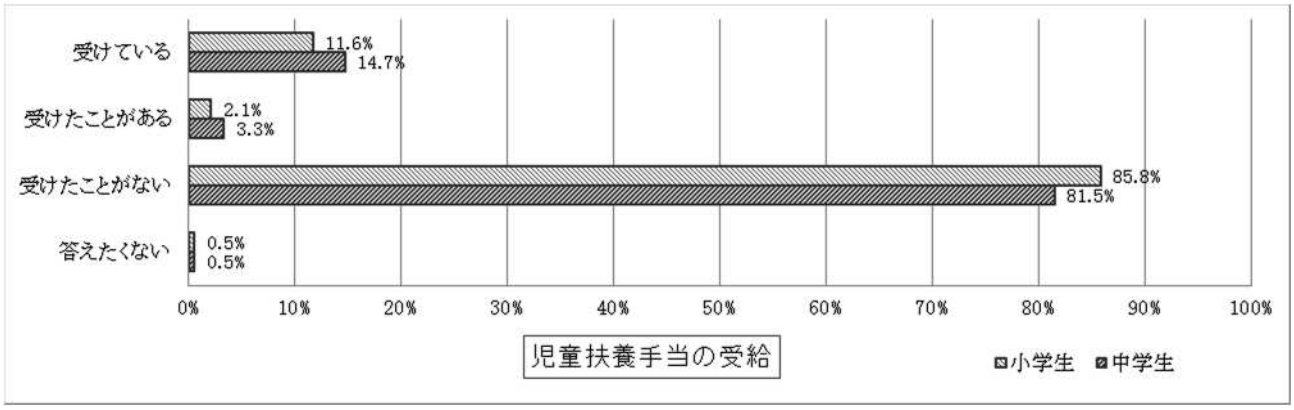


（相対的貧困層　N=102　それ以外　N=790）

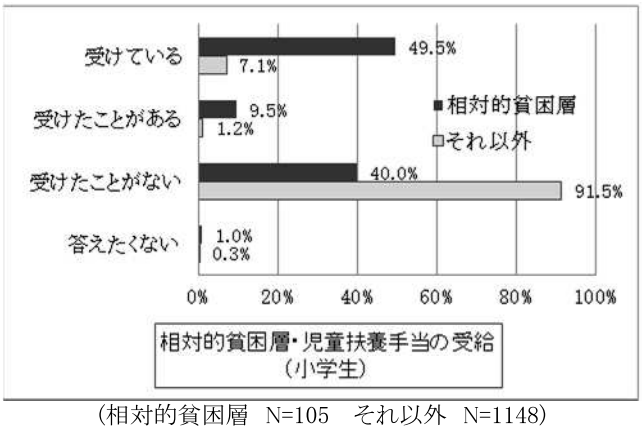
問 27②　児童扶養手当

「受けたことがない」という回答がもっとも多く、小学生の保護者で 85.8%、中学生の保護者で 81.5%です。次いで多い「受けている」という回答は、小学生の保護者で 11.6%、中学生の保護者で 14.7%です。「受けている」、「受けたことがある」という回答の割合は中学生の保護者でやや高くなっています。

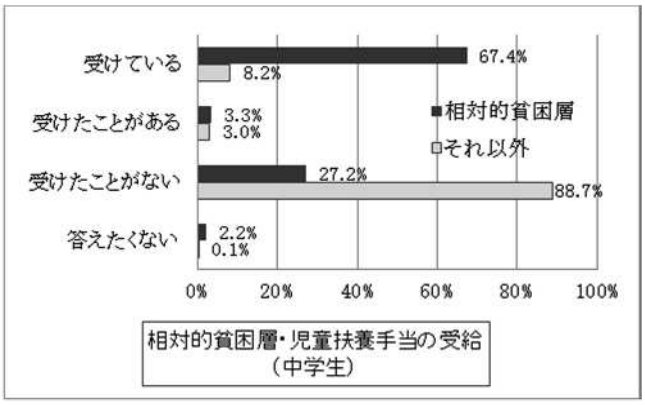
相対的貧困層では「受けている」という回答の割合が、小学生の保護者で約 5 割、中学生の保護者で 7 割弱といずれももっとも高く、「受けたことがない」という回答が、小学生の保護者で 4 割、中学生の保護者で 3 割弱となり、いずれも「それ以外」に比べて大きく下回っています。



（小学生　N=1392　中学生　N=968）



（相対的貧困層　N=105　それ以外　N=1148）

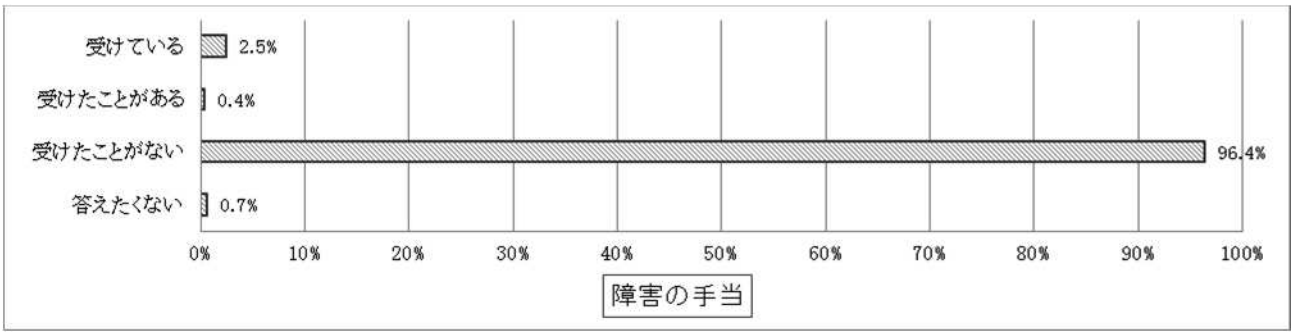


（相対的貧困層　N=92　それ以外　N=771）

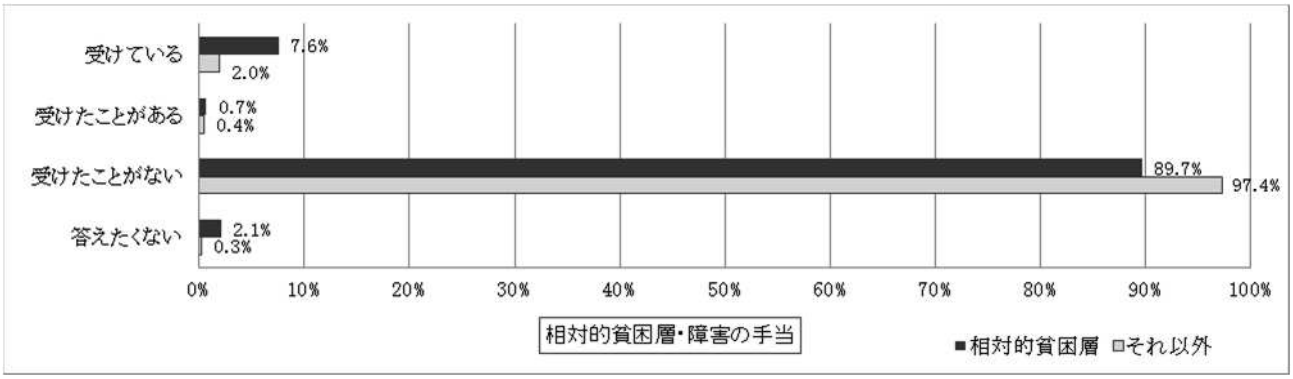
問 27③　障害の手当

「受けたことがない」という回答が、約 96%でもっとも多く、「受けている」(2.5%)や「受けたことがある」(0.7%)はわずかです。

相対的貧困層では、「受けたことがない」が 89.7%でもっとも多く、「受けている」という回答が 7.6%で、「それ以外」に比べて高いことがわかります。



(N=2265)

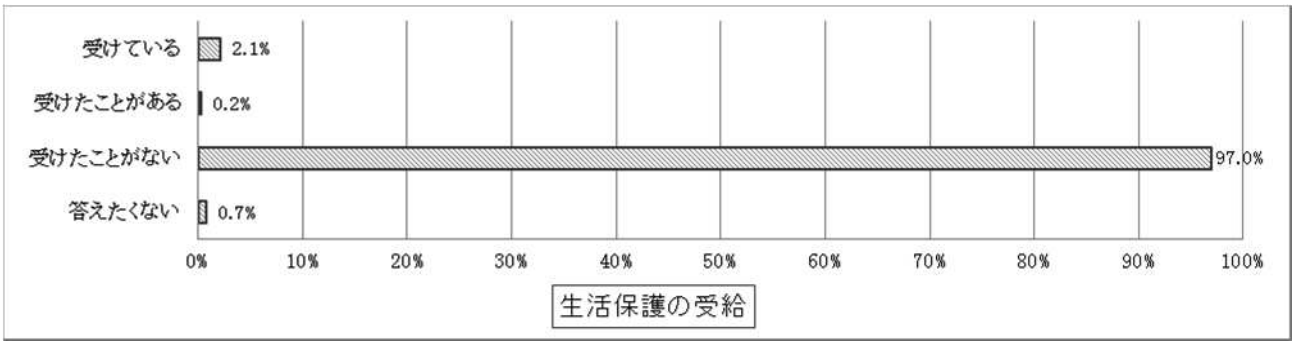


(相対的貧困層　N=145　それ以外　N=1888)

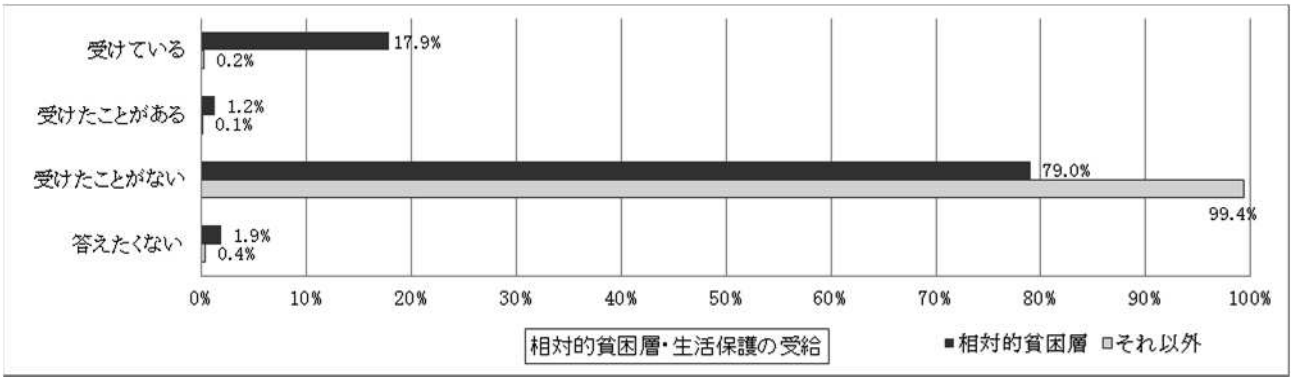
問 27④　生活保護

「受けたことがない」という回答が、97%でもっとも多く、「受けている」という回答（2.1%）はわずかです。

相対的貧困層では、「受けたことがない」という回答の割合は約 8 割で、「それ以外」と比べて 20 ポイント低く、「受けている」という回答は約 17 ポイント高いことがわかります。



（N=2281）

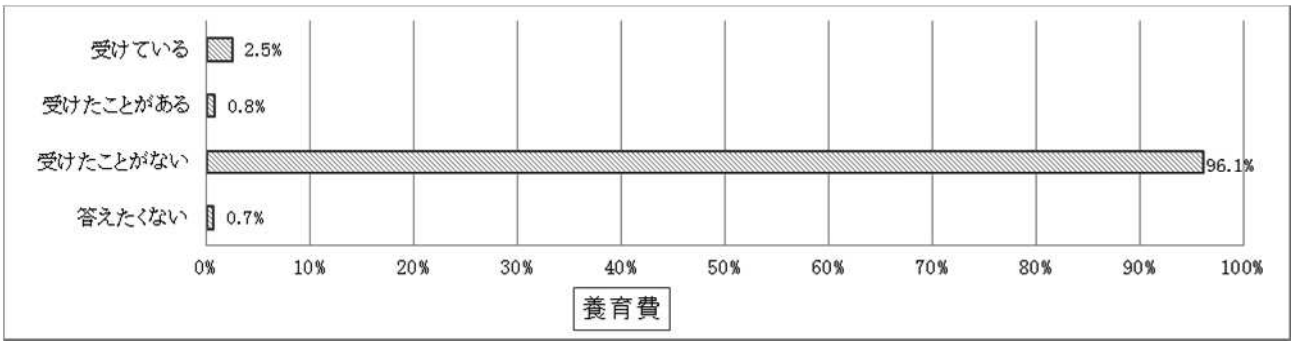


（相対的貧困層　N=162　それ以外　N=1884）

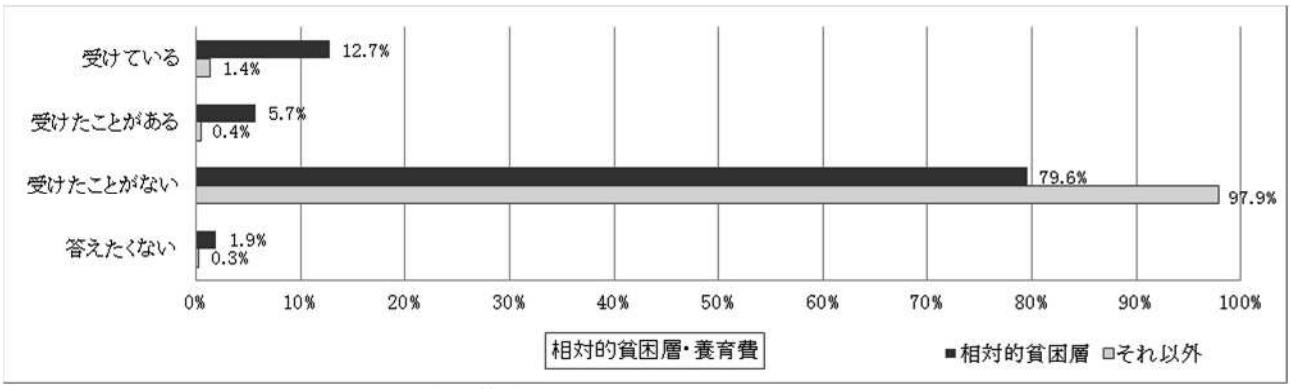
問 27⑤　養育費

「受けたことがない」という回答が、96.1%でもっとも多く、「受けている」という回答（2.5%）はわずかです。

相対的貧困層では、「受けたことがない」という回答の割合は、「それ以外」と比べて約 18 ポイント低く、「受けている」と「受けたことがある」という回答の割合はいずれも「それ以外」を大きく上回っています。



（N=2273）

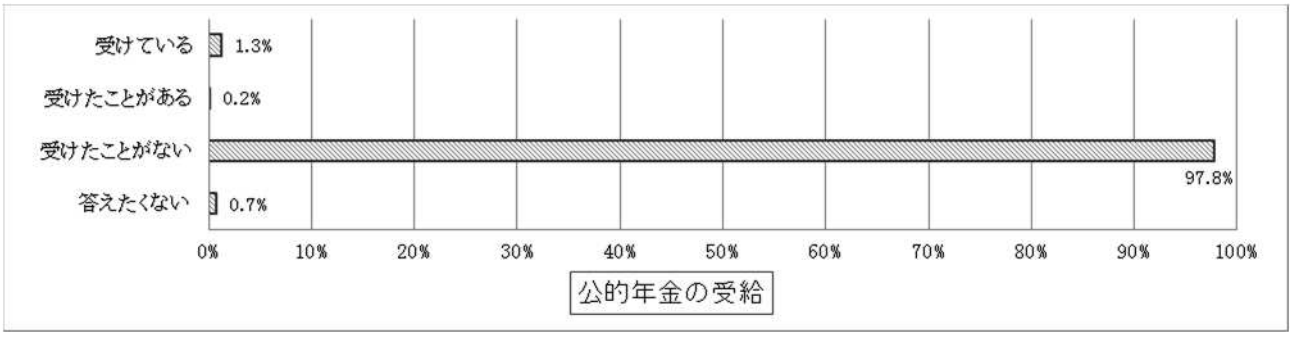


（相対的貧困層　N=157　それ以外　N=1885）

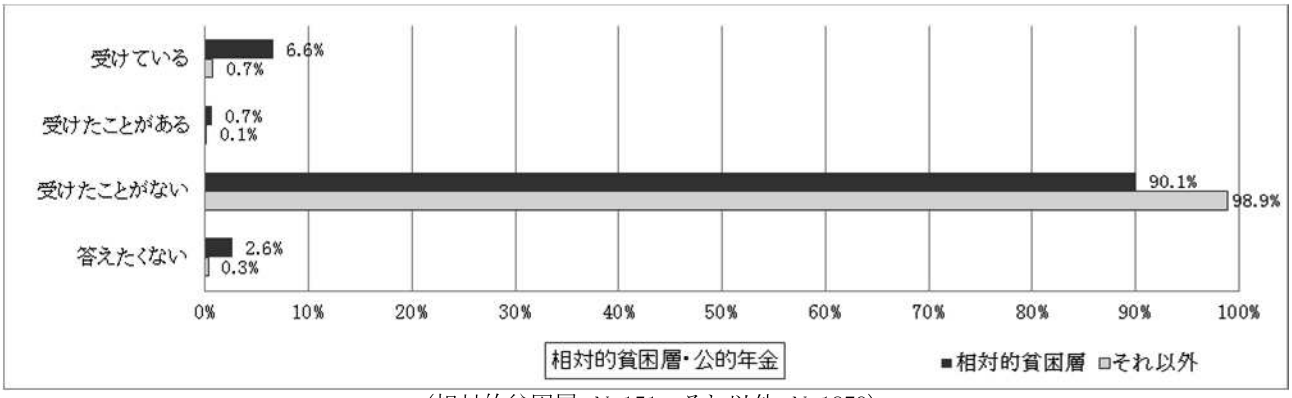
問 27⑥　公的年金など

「受けたことがない」という回答がおよそ 98%でもっとも多く、「受けている」という回答は 1%台です。

相対的貧困層では、「受けたことがない」という回答の割合は 9 割で、「それ以外」と比べて約 9 ポイント低くなっています。「受けている」という回答は 6.6%で「それ以外」を大きく上回っています。



（N=2260）

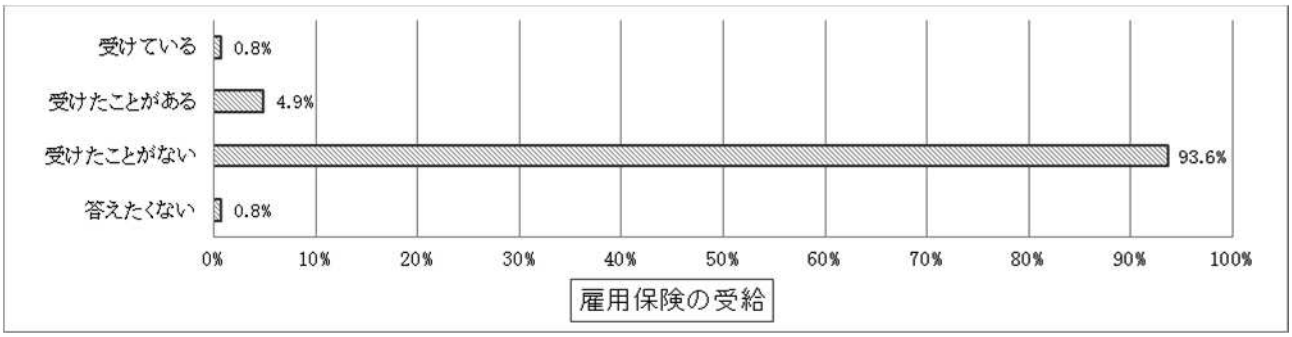


（相対的貧困層　N=151　それ以外　N=1879）

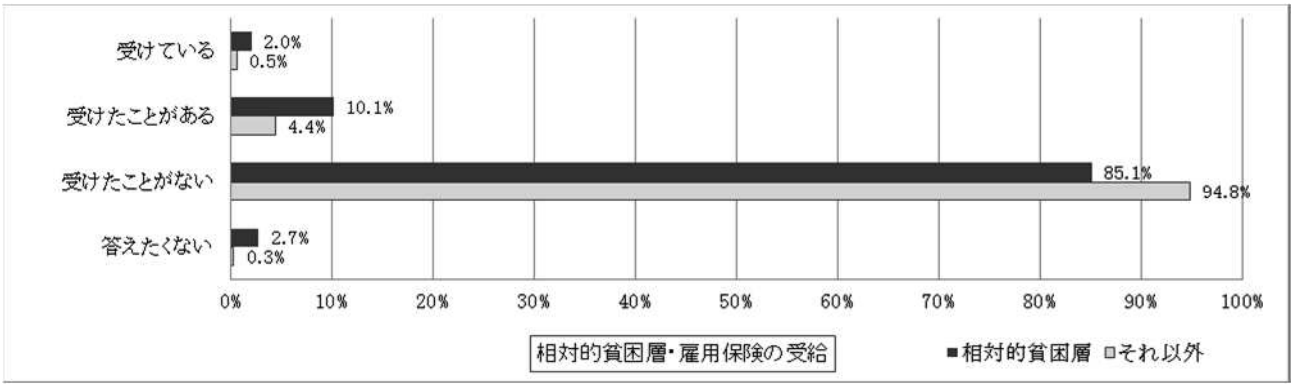
問 27⑦　雇用保険（失業保険）

「受けたことがない」という回答が、9 割を超えてもっとも多く、「受けたことがある」という回答は 4.9%です。

相対的貧困層では、「受けたことがない」という回答の割合は、「それ以外」と比べておよそ 10 ポイント低くなっており、「受けている」、「受けたことがある」はいずれも「それ以外」を上回っています。



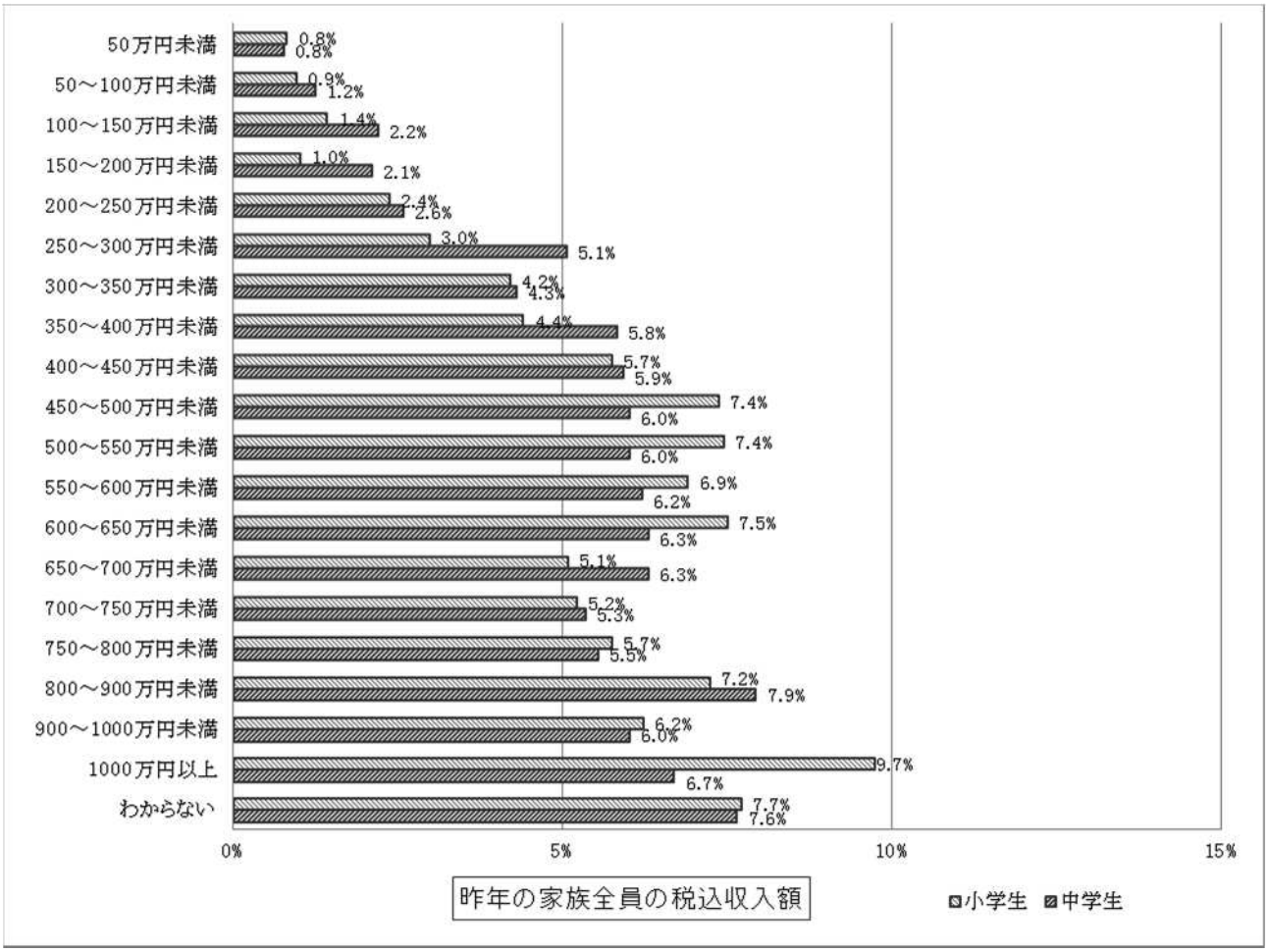
（N=2258）



（相対的貧困層　N=148　それ以外　N=1882）

問 28　ご家庭の経済状況についてうかがいます。昨年（平成 28 年）1 年間の、家族全員の収入の合計額は、税込みでおよそいくらでしたか。

家族全員の収入の合計額は、50 万円未満から 1000 万円以上までのいずれの区分でも 1 割を超えることがなく、高収入から低収入まで幅広い分布を示しています。「わからない」を除くと、小学生の家庭では 1000 万円以上がもっとも多く、次いで 600～650 万円、500～550 万円（同率で 450～500 万円）と続きますが、中学生の家庭では 800～900 万円がもっとも多く、次いで 1000 万円以上、650～700 万円（同率で 600～650 万円）と続いています。年収 900 万円を超える家庭が小学生で 15.9%、中学生で 12.7%ある一方、300 万円未満の家庭は、小学生で 9.5%、中学生で 14%です



（小学生　N=1479　中学生　N=1047）

家庭の経済状況＜小括＞

家計の経済状況では、「貯蓄ができている」「赤字でも黒字でもない」「赤字である」に 3 分されています。相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともに「赤字である」がほぼ 5 割に達しています。子どもの将来のための貯蓄では「貯蓄をしている」がもっとも多いものの、相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともに「貯蓄をしたいができない」がもっとも多く、その割合は中学生の保護者でより高くなっています。

家庭での生活費用の稼ぎ手は父親とする回答が 8 割を大きく超え、母親とする回答のほぼ 2 倍ですが、相対的貧困層では、その順位が逆転し、小学生、中学生の保護者ともに母親とする回答が父親を大きく上回っています。

経済的な理由で経験したこととして、もっとも多い回答は小学生、中学生の保護者ともに「趣味やレジャーの出費を減らした」で、特に注目されるのは、「食費を切りつめた」が中学生の保護者の回答で第 2 位（小学生では第 3 位）になっていることです。全体的に中学生の保護者に節約の度を強める傾向が見られます。相対的貧困層では、「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのをやめた」など、生活必需品の節約が上位に上がっています。

就学援助を「受けている」、または「受けたことがある」保護者は、中学生では 2 割を超えています。生活保護費、養育費を「受けている」、または「受けたことがある」のは、いずれも 2〜3%ですが、相対的貧困層では、いずれもおよそ 2 割となっています。公的年金の受給はその経験も含めてさらに小さい割合ですが、雇用保険の受給はその経験も含めて、割合が少し高くなっています。

家族全員の収入の合計額は、50 万円未満から 1000 万円以上までのいずれの区分でも 1 割を超えることがなく、高収入から低収入まで幅広い分布を示しています。年収 900 万円を超える家庭が小学生、中学生ともに 1 割を超えている一方、300 万円未満の家庭も、小学生、中学生ともに 1 割前後います。